

C-9

積極的な診療支援をめざして、活性化する臨床検査
—DSSによる診療支援サポートと技師育成への活用—

畑中 徳子

天理医療大学医療学部臨床検査学科

今や検査データは即、診断や治療に使われている時代であり、検査のデータ保証の重要性はとて高くなっていく。「検査データを保証する」とは単に”正しい検査結果を返す”ということではない。検査データから病態を推定し、診療の方向性を左右するような情報発信をしていくことでもある。臨床検査技師もチーム医療の一翼を担うものとして、誰かに寄りかかるのではなく立ち立した情報発信をし、診療に貢献したいものである。

しかし“チーム医療の一員として”、“診療に貢献できる検査部”、“検査データの価値を高める”などが訴えられて久しいが、どれほどの検査部が積極的にそれを実現できているだろうか。今後、臨床検査技師がもっと積極的に診療に関わることができる環境は、どのようにして作っていかばいいのだろうか。天理よろづ相談所病院検査部での経験から考えてみたいと思う。

【診療支援のあり方のいろいろ】

1. Panic 値報告：最も治療に直結し患者の命を守る
Panic 値報告は、医療安全の観点からも注目される。検査部は早く確実に担当医に伝えられる体制を整え、手順に従い実施するようにしているが、連絡遅れの事例を経験することはある。公財) 日本医療機能評価機構は、臨床検査部から連絡がなかった事例あるいは連絡はあったが医師に伝わらなかった事例について取り上げて注意喚起をしている。その事例の一つは、外来患者の血糖値 800mg/dL を“再検査中”で一旦報告を済ませ、その後昼休憩の時間帯で人が少なかったため余裕がなく報告を失念したため、医師がそれを目にしたのは 10 日後となってしまった。

治療に直結する検査値だけに、再検査や輸液混入の確認をしたいところではあるが、尿比重や尿糖の結果はどうだったのだろうか。本当に報告を止めて再検査する必要はあったのだろうか。まずは患者の状態を確認する必要はなかったか。などと後から色々浮かんできてくるが、忙しい中、全ての状況で検査担当者がその判断を確実にできるだろうか。すぐに相談できる相手がいない環境で働く技師も多く、人の力だけでは問題が残る。

2. 検査値からみた病態推定と追加検査などの情報発信：
LD や ALP の単独高値症例にアイソザイム検査、あるいはグロブリン高値症例に蛋白分画の追加検査を推奨するなども、治療の方向性を左右する重要な情報であり、積

極的に取り組みたい。そのための手順は異常値検体に測定誤差はないかの判断、前回値の確認、複数の検査データからの総合的な病態推定、病歴の確認などがあり、その過程を経て、医師に報告となる。

3. 検査情報室 (LI) の設置と情報発信：LI の役割は、検査に関するよろづ相談窓口、検査の情報収集とその解析、苦情処理と是正処置などである。これまで LI はその役割を十分に果たしてきたと思うが、検査情報を最大限に活かすという意味では未だ十分ではない。問い合わせに対する受け身の情報発信であるからだ。今後は全検査データを解析し見逃せない症例についての積極的な働きかけが必要だ。これからの LI の仕事は Panic 値報告や追加検査推奨など、各検査担当者からの診療へのアプローチを統括し見守ることや、自身も総合的なデータ解析から病態を推定し診療の方向性を左右するような情報発信をすることであるだろう。

【受け身からの脱皮、働きかけへの転換】

ここまで積極的な診療支援のいくつかを挙げたが、それには報告すべき症例のピックアップ、その対処方法、報告までの手順、そして記録、これらを一括管理できるシステムが不可欠となる。そのサポートを可能にするのが診断支援システム DSS (アボット社) かもしれない。このシステムは大量の検査結果を複数のロジックに通すことで、対象となる症例を抽出できる。まずは日常に行っている病態推定の思考をロジックに落とし込むことができ、使いながら簡単に改良を加えていくこともできる。また抽出症例への対応の進捗状況やその報告記録が残せ、追加依頼がなされたかの追跡も可能である。症例抽出の過程を示すロジックはプロの思考そのものであり、中身をみることで教育にもつながる。またロジックの最終アウトプットには、具体的な確認事項や、カルテや検体のチェックポイントを記載できるため、見落としや過誤の防止にも繋がる。ロジックを組むのはハードルが高いと感じる方もいるかもしれないが、標準化が進んだ今日、施設間差なく共有することも可能かもしれない。また臨床医のニーズを聞き取りロジックに組み込むのも一つかもしれない。

【まとめ】

今後、検査データを使った質の高い情報発信をどこでもだれでもができることを目指したいものである。